



湘南学院高等学校図書館

ライブラリーニュース 2024年度 第一号

発行 2024年6月7日

湘南学院高等学校校図書企画委員会

編集

目次

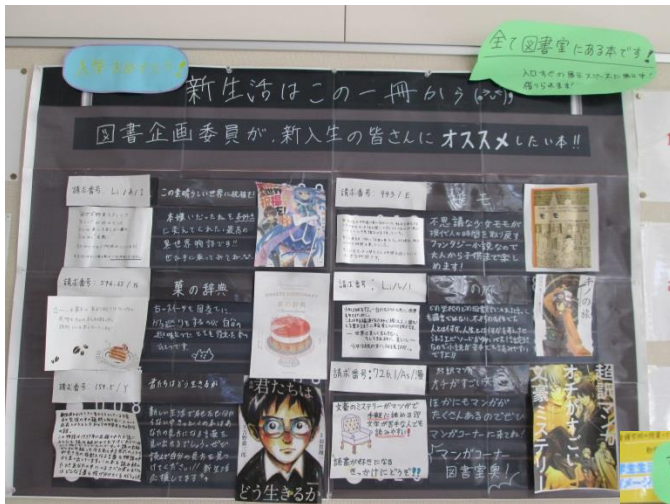
新入生へのオススメ本	p 3 ~ 5
〈テーマ交換会〉	
説明	p 7 ~ 9
作品紹介	p 9 ~ 15
テーマ交換会で関連した本	p 16 ~ 17
おすすめ本交換会	p 18 ~ 25

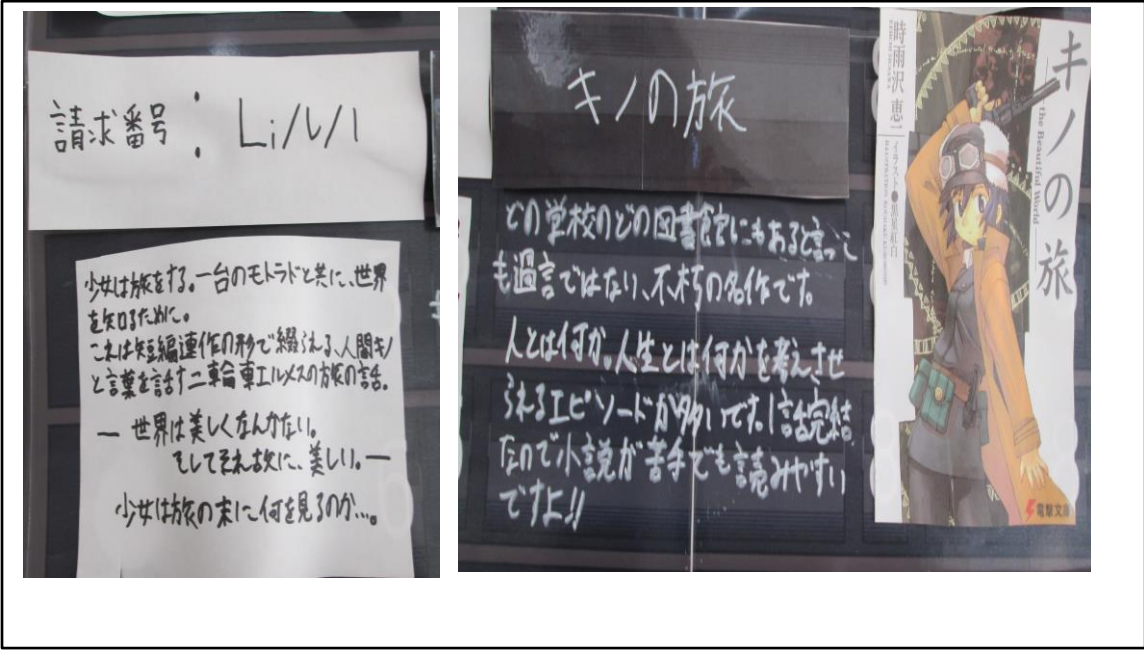
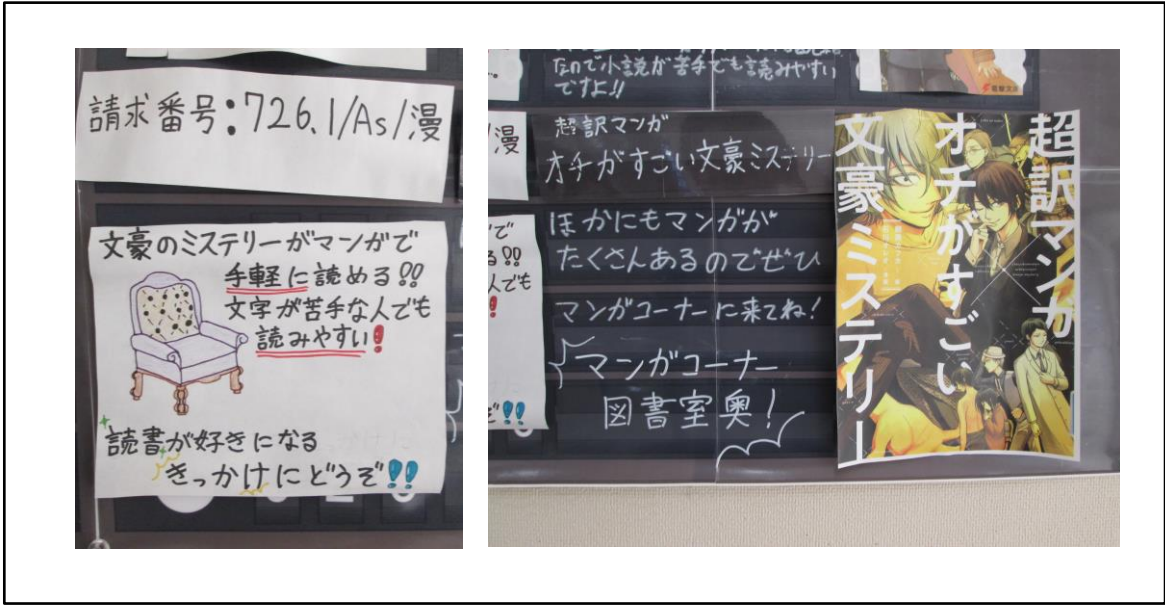
新入生、進級生(高2 高3生)へ

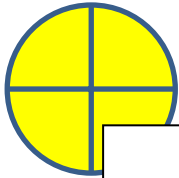
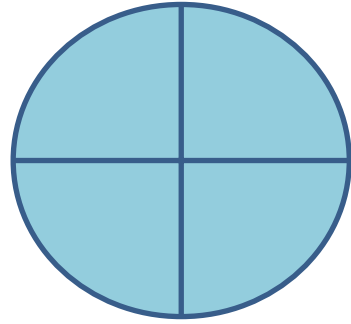
ご入学、ご進学おめでとうございます。

この学校に入学して色々な委員会があり、とても迷ったと思いますが、今回のライブラリーニュースでは、そんな新入生や進級生へ、図書企画委員がどんな委員会か知ってもらえたら嬉しいです。

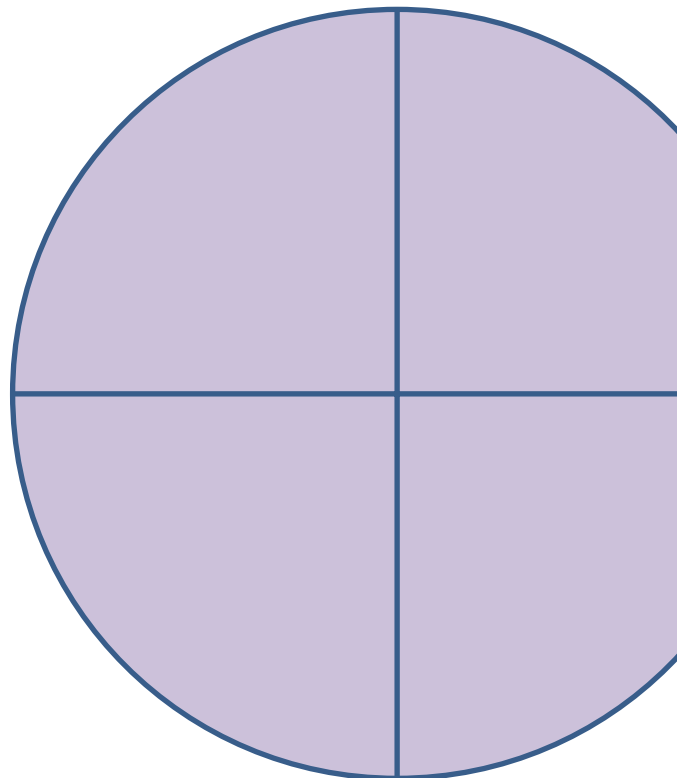
図書企画委員が選ぶ！ 新入生へオススメ本紹介







テーマ交換会



テーマ交換会

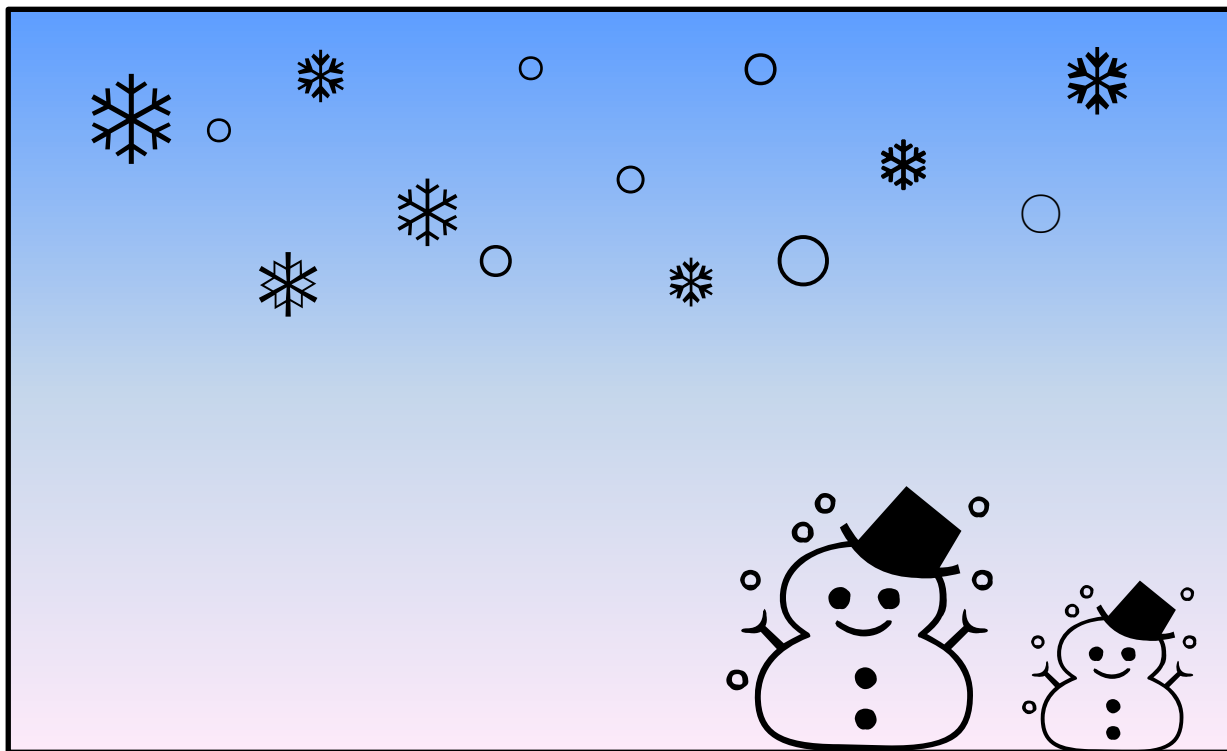
「冬」

皆さんは「冬」と聞いて何を思い付きますか？

「寒い」であったり、「雪」などや、もしかしたら「松ぼっくり」なんていう人もいるかもしれませんね。

今回、私たち図書委員は「冬」から連想する言葉を一人一つずつ挙げ、さらにその言葉をテーマとして交換し合い、本を選んだり、作品を作るテーマ交換会を行いました。

私たちの十人十色の作品と、紹介した本を見てもらえたら嬉しいです。





テーマ・シマエナガ

作品名・絵

工夫点・シマエナガは木に止まっている姿が可愛くて印象的だが、飛んでいる姿にはその可愛さからは想像できないような優雅さ、美しさがあるため、飛んでいる所を描写した。羽をいっぱい広げている所を書くことで、小さい体で精一杯飛んでいるところも表現した。

by R.S

テーマ・しもやけ

作品・イラスト

工夫点・しもやけを強調させるためにあえて肌を白くしてしもやけ感を増すことが出来ました。とにかく寒い、冷たいというのが伝わればいいなと思いました。

by T.Y



鏡餅に

年の始めを

祝うなり

テーマ・鏡餅

作品・俳句

工夫点・この俳句は、鏡餅が新年の始まりを祝うという日本の伝統的な風習を表しています。鏡餅は神様にお供え物として、正月に飾られています。

最近では、餅つきをするという場所や体験も減っています。鏡餅は日本の伝統文化である餅つきがあってこそ成り立つ文化であります。皆さんもそういった日本文化に少しでも目を向けてみてはいかがでしょうか。

by K.T

テーマ・ふきのとう

作品・しおり

工夫点・抽象的になるように考え、茶色の紙で土を表現し、白い紙の破片をまぶして雪を表現したところ。

by A.Y



テーマ・雪

作品・羽織

工夫点・図書館にある 長崎 巖『染と織を訪ねる』や水町 真砂子『織物 用具と使い方』といった本を読み、分からない部分や載っていない部分はSNSで補完し丁寧に自分好みの羽織を仕立てていきました。特に布を縫い合わせる際には、できる限り慎重に縫い、柄合わせを考えました。

その仕立て方や家紋の種類など詳しいことが気になった人は是非、図書館の721.8~779の棚を調べてみて知的好奇心をどんどん満たしてってください。

その他にもお菓子作りやおすすめの旅行スポット、ファッションについての本があります。たまにはネットだけでなく、本から知識を得てみませんか。

(=^・・^=)

by S.S



テーマ交換会でできた！

小説

ふきのとう？

独り善がりのAI

「おうい、葵！コレ何だと思う？」

そう言って幼馴染は緑色の植物を出してきた。それは重なり合った葉が多い蕾のようなものであった。

「さあ、なにか見当もつかないね。」

幼馴染はニコニコして機嫌が良さそうだ。

「へえくわからないんだあ。コレね『ふきのとう』っていうんだって。たか爺が食べれるって言ってたから食べよ！」

「ふーん…僕はやめとくよ」

そう言うと幼馴染はニヤニヤと気持ちの悪い笑みを浮かべた。

「葵もしかしてビビってるの？ハハッ情ねえなあ」

「ち、違うし…で、どうやって食べるの？」

恥ずかしくなって話を逸らすと幼馴染はムツとしたようだが素直に答えてくれた。

「普通に茹でれば食えんじやね？知らんけど。」

「えー…やめとけ、あぶないよ」

すかさず注意したが幼馴染は不貞腐れたようだった。

「ちえっ、お前もそう言うんかよ」

そう吐き捨てる『ふきのとう』を握り締めて走り去った。

「お、おい！」

慌てて追いかけたが学年一の俊足には勝てはしなかった。

その夜、大人達の話し声で目がさめた。

「んー、お母さあん…何してるの…？」

リビングの電気がついていたので母親を呼ぶ。

「あら、葵起きちゃったの…今ね…」

チラッと父さんに目配せをしてから何かを決めたように話し始めた。

「今あなたの幼馴染の恵さんがね、救急車で運ばれたって…」

母さんの話によると恵は『ふきのとう』によく似た『ハシリドコロ』を炒めて食べたらしい。

それで一、二時間後くらいしてから嘔吐と痙攣をしているところを恵の両親が見つけたらしい。

「だからやめとけて言ったのに…」

こうして、自分たちの無知と植物の危険さを思い知らされたのであった。

『ふきのとう？』

独り善がりのAI

テーマ・ふきのとう

作品・小説

工夫点・ふきのとうの危険さや無知の危うさを注意喚起をこめてかいたところ。

次のページからは二人目の小説作品です。↓

あやかしかんさつき
妖観察記

詩季

凍てつく冬暁。夜明けの日の明かりが照らす道路を、まだ寝たり

ない車たちが数台、よぼよぼと進んでいく。5時のこの時間は、そこまで車通りもなく、車道が空きに空いていた。

この街に寂しげに建っているあるワケ有りの1LDKのマンションには、毎朝、毎夜、『何か』が宿主を見貫いている。それが霊の類か、妖の類かは分からないが、大家さんが気味悪がり、その一室だけを法外な安さで貸しているのが、唯一の証左になるだろう。

突如としてカーテンが開かれる。夜中に獣の呻き声が聞こえる。お坊さんの念仏と共に、家の中の蝋燭が付いたり、明かりが消されたり。諸々の怪奇現象で、この家に住んでいた住人たちは皆、精神をやられてしまい、この一室に噂だけを迷子のように残り、去っていつてしまった。

そしてまた一人、若い女教師が噂の証人に……。

「ぎにやああああ!!もうっ!うんざりじゃー!」

「……朝から騒々しいぞ、アシナ。みつともなく泣きわめくんじやない。それでも立派な妖怪様かあ?」

この者たちはここの住人ではない。この家に居候している妖たちである。何を隠そう、この二体の妖、猫又と垢嘗が噂の真相なのである。

2体の名前はアシナとネブリ。数十年前の住人が、風呂掃除を怠ったことでネブリが産まれ、十年前の住人が、死なせてしまったメスの老猫からアシナが産まれた。

二体は会った頃から気が合い、お互いに誘い合っては住人に悪戯をしているのだが、二年前から住み始めた住人、この女教師には、どうやらあまり通用していないようだ。

「だって……、だってっ!何なのじゃ!あの若人は?儂らが代わる代わる、時には同時に悪戯を仕掛けていくというのに、何故一度たりとも気付かないのじゃ!?可笑しいぞ!!」

「……ま、確かにそうだわなあ。洗面所から出てきた途端に天井から脅かしても全く気付かんし、念仏を唱えても聞いてくれない。寝ている時に呻き声を上げても何も反応なし。電気チカチカもなかったしなあ」

「もう少し反応してくれたっていいではないか。これでは一人芝居をしているようじゃ」

アシナはさつきからくるまっぴいるこたつに、顔を埋めて、ぐううう、とくぐもった鳴き声を響かせる。

「お前さあ、別に実体ないから寒くないし、こたつ入る意味なくないか？」

その様子を不思議に思ったネブリがそう聞くと、アシナはこたつの中に入ったまま、くぐもった声で答えた。

「こたつの中は何でか暖かい気がするんじゃ。それに着物をはだけていると見た目的に寒い……」

「じゃあ着込みやあいじゃん……」

当然の主張を幼気な猫又(妖)たちの年齢は五十歳くらいで立派な一人前くらいである)にぶつけておきながら、ネブリはこの住人が起きる音を、壁越しに感じる。

「ふわああー、起きた、起きた。学校行かないと……」

「噂をすれば、だな。アシナ起きたぞー」

「しゃしゃしゃー！」

ここぞとばかりにアシナがスタンバイ。

ドアが開いた瞬間……。

「キシヤー！」

アシナが最大級の威嚇をするが、ドアも住人も体をすり抜け華麗にスルー。

もはや日常となってしまうたその光景にアシナはぐったり俯き、ネブリは呆れる。

「ドンマイってこった。また魚を食べられると思って元氣出せや」

「うう、不甲斐なし……！」

そうこうしているうちに女教師はと言うと、目にも止まらぬ速さで支度と朝ご飯を終え、今から家を出るところだった。

「行つてきまーす……。あれ？財布どこやったつけ。あ、あった」

ギイー、バタン。耳障りな音が鳴り、扉が閉まる。その様子をアシナは恨めしそうに見送って、思い出したかのように冷蔵庫に向かった。

「魚！魚！今日は何があるかのお♪」

「金目鯛だぜ！こりやあ上物だ。俺にも少しわけてくれや」

「いやーじゃ！これは儂のじゃ！絶対に渡さんぞ!!」

女教師はまだ扉前にいた。何しているのかと見てみれば、何やら扉に耳をつけて家の中の音を聞いているようだった。音が耳に

届く度に、女教師はくすくすとほくそ笑む。

その姿を、葉巻を吸いに来たお隣の女性が見つければ、火を葉巻に移しながら話しかける。

「なんだ？小雪の嬢ちゃん。また『ワケアリ』どもが話してるのかい？」

「そうなんですよ紬さん。いつも学校に行く前に聞くと可愛くて癒されるんですよ」

「へえ、私には一切見えないし、会話も聞こえないがね。ま、学校頑張ってくださいなよ」

「はい、行ってきます！」

もう一度、小雪は耳を扉につけて、未だに喧嘩をしている妖たちに向けて、心底愛おしそうに、

「行ってくるね、アシナ、ネブリ」

そう届くはずもない言葉を投げ掛けた。

『妖観察記』

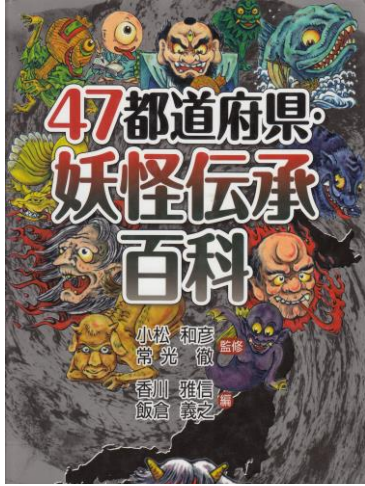
著者：詩季

テーマ・こたつねこ

作品・小説

工夫点・それぞれのキャラの個性を立たせるようにした。また短いながらも分かりやすく、それでいて面白くするよう工夫した。

テーマ交換会で関連した本あつめてみた！



テーマ

こたつねこ

この本では、日本に伝わる様々な妖怪の伝承をそれぞれの地域ごとに読めます。

一妖怪ごとに詳しくエピソードが書かれているので、妖怪好きにはたまらない一冊になっていますよ！

テーマ

シマエナガ

この本は、シマエナガの写真集になっています。

地面を歩いたり、木の枝に止まっている丸っこい姿や飛んでいる姿など、色々な画角で可愛いシマエナガを見ることが出来る素敵な一冊です！



テーマ

しもやけ

この本は、いろいろなお話が詰まっています。その中でも「サンタ・クロースとしもやけ」はしもやけに悩まされている1人の少女と不思議なサンタクロースのお話です。痛くて冷たいしもやけでも友達になるきっかけになるかもしれません。ぜひこの本を手にとってそんな少女とサンタクロースの話を覗いてみましょう。



テーマ

ふきのとう

野菜の知識が増えることはもちろん！
オススメの料理法なども書かれていたり、写真などもあるのでとても読みやすい！



テーマ

雪

雪の際、昔の人は、羽織を着てしのいでいたという話を聞き、どのような手間をかけて、羽織を仕立てたのか知りたくて、作成しました。そして、羽織の型紙や、手順が載っている本が図書館に蔵書されていたので、紹介したいと思いました。



テーマ

鏡餅

この本は古文や漢文を学んでいる人にぜひ読んでほしい本です。

この本は新年を祝っていた意味や新年を祝う古文などが記されています。

この本の真骨頂だと思う点は、それぞれの季節によって出されている本があるということです。

例えば写真の本では主に新年を記したことを書いていますが、他の本では春に関する俳句や行事ごとの意味が載っています。

この他にも夏・秋・冬があります。これらの本には私たちの知らない知識が載っています。また逆に私たちが知っている知識なども含まれていたりします。この本は古く、読まれることも少ないのですが、興味を持ってこの本に接して見てほしいです。



おすすめ本交換会

おすすめ本交換会

「これだ！」と思う一冊になかなか出会えず悩んでいた今日この頃、もしかしたらいつも読んでいるものとは違うジャンルの本に手を出してみたら、新しい発見ができるかも！と思い立ちました。

しかし、自分が普段読んでいないジャンルの本に手を出すと、何から読めばいいか見当もつかずで...

そこで、図書企画委員にオススメ本を紹介してもらおうと考えました。

しかし、ただ紹介し合うだけじゃつまらない...

ということで、委員同士でオススメ本をランダムで交換し合おう！という考えに至ったわけです。

我ながら私情が9割の始まりでなんとも言えないのですが...

図書館を利用する皆さんが、本を手にするきっかけになるように、交換した本を読んだ感想を記事にしてみました。

この機会を通して、皆さんにも新しい発見が待っていることを祈ります！

交換相関図

(今回は委員全員でなく、募集して集まった委員で本交換をしました！)

■委員1：虐殺器官 913.6 It 文 to ■委員2：精霊の守り人 913.6 U 1 文

■委員3：シェイクスピア集 10 908 C 10 to ■委員4：この素晴らしい世界に祝福を！
Li あ 1

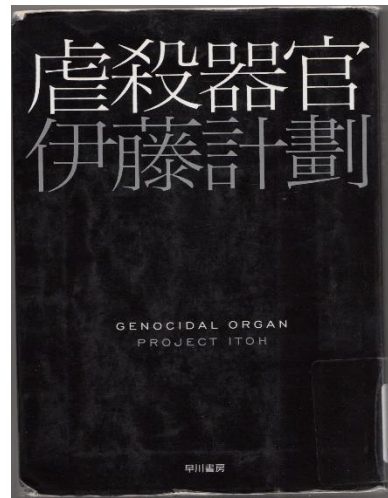
■委員5：鎌倉うずまき案内所 913.6 Ao 文 to ■委員6：あるかしら書店 726.6 Y

『虐殺器官』 伊藤計劃著

開幕からの印象は「暗く重々しい世界なのに、爽快感がある」という、これまでにない新しい感覚だった。この作品のジャンルはSFだが、主人公が軍部に所属している関係上、タイトルから分かるように中身はかなりグロテスクな描写が多い。

しかし、主人公はそれに対してかなりフラットに、冷め切った感情でそれぞれを感じていた。周りの仲間や登場人物が感情を出す中、主人公だけは客観視していたのだ。これが、自分が読んでいて感じた「爽快感」なのかもしれない。

そしてもう一つ、内戦や虐殺が渦巻く混沌の世界で重要なワードとして「虐殺器官」が出てくる。タイトルの物騒なワードだが、これとこれを作ったジョン・ポールという人物をたどり巡ることで、主人公の今後が変わっていく。ただの暗殺任務が、世界の真相を目の当たりにすることになっていく。普通のSFでは感じられない独特な世界観を、ぜひみなさんにも感じてもらいたい。



『精霊の守り人』 上橋菜穂子著

私は上橋菜穂子さんの『精霊の守り人』を読みました。

この本を読んで、まず読みやすい文章だと思いました。

会話や行動、心情がわかりやすく、想像もしやすかったです。

キャラクターによって話し方に個性があ

って誰が話したことなのか

わかりやすいし、いろいろな話し方があ

るのに、どれも違和感なく読めるのがあ

ごいと思いました。

内容も面白くて、物語に没入してしまう

ほどでした。



『シェイクスピア集 10』

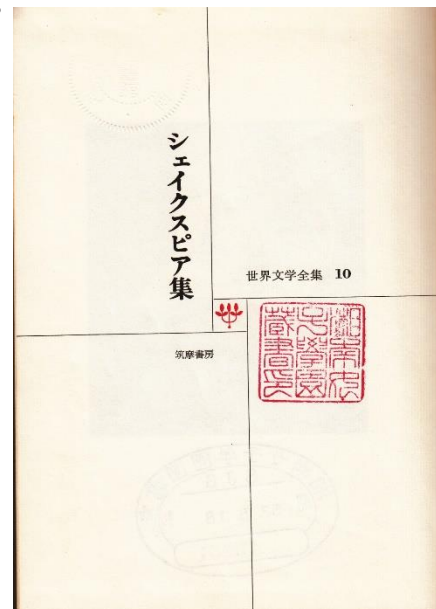
まず、私は今までこのようなジャンルの本に手を出したことがなく、このシェイクスピア集を通して新しい本の世界を知りました。私は最初、この本はシェイクスピアについて難しく色々書かれているのだと思っていました。でも実際の内容はシェイクスピアのつくった演劇の台本でした。文は全て登場人物の会話になっていて、読んでいるとその世界観に引き込まれて、まるで目の前で劇を見ているような臨場感を感じました。内容はギャグも含まれていて、とても面白かったです。

この本には、「十二夜」、「ハムレット」、「オセロー」、「マクベス」、「リア王」の四大悲劇を含む話が五つ載っています。

その中で私は、「十二夜」が一番お気に入りです。男装しているヴァイオラに惚れてしまうオリヴィア。しかし、ヴァイオラはオーシーノー侯爵に思いを寄せていて。

そんなオーシーノー侯爵は狂ったようにオリヴィアを愛している。目が離せない三角関係にワクワクが止まりません。何より、終盤の見事な伏線回収が最高でした。

素敵なお話に会うことができました！



『この素晴らしい世界に祝福を！』

暁なつめ著

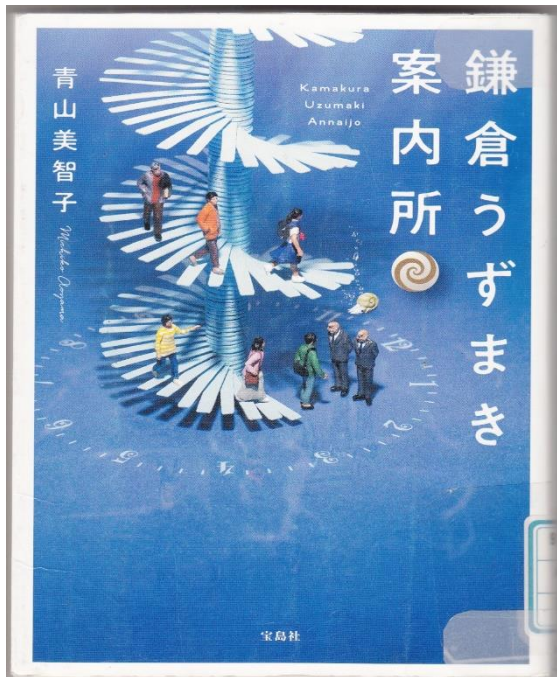
今回の交換会では、『この素晴らしい世界に祝福を！』という小説を読ませていただきました。

自分はアニメ版しか知らなかったため、ライトノベルを読むという事は新鮮でした。

普段読まないような本を読み、知るきっかけになる交換会は高校生活の中でも特に印象的な思い出になったと感じています。



『鎌倉うずまき案内所』 青山美智子著



久しぶりに小説を読んだのですが、とても細かい説明で、人間像や情景が想像しやすく読みやすかったのがとても良かったです。普通知らない町が出てくると、どこだろうという疑問が出てくるけれど、『鎌倉うずまき案内所』は、小町通りなど馴染みのあるところ、物が多くて分かりやすかったです。

蚊取り線香の巻では、最初主人公の普段の日常を描いたものかと思ったら、街並みが急に変わったりして急にSFになったので、とても話に引き込まれました。主人公は編集者という仕事の悩みを抱えていて、私も編集者になりたいと思っていたので、自分と重ねて考えたり読むことが出来たし、とても参考になりました。

『鎌倉うずまき案内所』は、所長がアンモナイトだったり、独特な雰囲気がとても魅力的で、自分も行ってみたいと思いました。悩みを聞いてくれるおじさん達も個性溢れていてユーモアがあってとても好きでした。

『あるかしら書店』

ヨシタケシンスケ著

「こんな本ってありますか？」と訊けば、「ありますよ！」と見つけて来てくれる、すてきな書店員さんがいる本屋、あるかしら書店。

ちょっと珍しい本、本にまつわる仕事の本、本そのものについての本など、お店のおじさんが「ありますよ！」と



持って来てくれる本は、「ええっ!？」と驚いてしまうような面白いものばかりで、とてもわくわくします。例えば、『「作家の木」の育て方』、『月光本』、『読書履歴捜査官』、『本の降る村』、『本が四角い理由』なんて本が登場します。タイトルも魅力的ですが、本の内容も面白いものばかり。

ヨシタケシンスケさんの、ちょっと力が抜けるやわらかい雰囲気イラストが、クスリと笑わせてもくれる、ページをめくるだけでもとても楽しめる1冊です。「あるかしら書店」、私も行ってみたいなあ。

編集者 図書企画委員 広報班 山澤

発行者 湘南学院高等学校図書企画委員